

令和6年度学校評価報告書（定時制課程）

1 学校教育目標

- 社会の多様な変化に対応しながら、自らの未来を切り拓くために、
- 高い志をもち、意欲的に学び、考え、行動する人を育てます（知）
 - 心身を鍛え、逞しく、しなやかに生きる人を育てます（体）
 - 感性を磨き、互いの個性を尊重し、協働する人を育てます（徳）

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導 学校評価アンケート 教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」については全体計画・指導計画を作成し、充実改善を図ることができた。 ・授業評価を活用した授業改善に、各教科担任に取り組んでいただいております。今後も継続してまいります。 ・新入生の少人数指導は、学習の定着をはじめ様々な部分で効果があったが、その反面、指導者側の負担増ともなった。 ・ICT機器の活用については、支援システムのマニュアルを作成し、運用することができた。また、研修会等を利用して情報提供を行い、活用を促進することができた。 ・ほとんどの科目でgoogle classroomを利用していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の充実について、全体計画・指導計画を作成し、改善を図ることを期待する。 ・ICT機器の活用について、支援システムのマニュアルを作成し、研修会等で情報提供を行うことは、教員のICT活用スキル向上に役立つと思う。 ・授業評価を活用した授業改善については、各教科担任が継続して取り組みたい。また、研修等で得られた情報を共有することで、学校全体の授業改善につながると期待する。 ・新入生の少人数指導は、学習の定着に効果がある一方、指導者側の負担増となる可能性がある。 ・本年、大学入学共通テスト受験者があったとの報告がありました。今後、大学進学・専門学校・就職と生徒の希望は多方面になると予想されるが対応は大丈夫か。 ・体験的な学習の充実と「学び」の楽しさに触れる学習の充実に期待する。 ・少人数指導の効果の特質を見極めたうえで指導者の負担を整備していくことが必要だと思う。 ・少人数指導は、生徒側には学習などで効果があったと思うが、教師の負担がふえているので、そこをどう減らすかが課題である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の充実・改善について教務部と各学年の総探担当者で話し合う場を設ける。 ・Google formの使い方については、職員の入れ替わりがあることと情報漏洩の観点から毎年度研修を行い、使い方を周知する。 ・授業評価を活用し、授業改善を図るとともに、研修等で得られた情報を共有する。 ・成績通知表の発送について、郵送は取りやめ生徒を通じた手渡しにする。 	
生徒指導 学校評価アンケート 生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導事故1件、いじめの認知1件であった。いじめの1件は解決済みである。 ・全体的に落ち着いた学校生活を送っており、次年度以降も継続させたい。 ・遅刻・欠席者の固定化と恒常化があった。 ・生徒会執行部を中心に行事の企画・運営は滞りなく実施できた。また、役員の選挙において、自主的な立候補があったが、学年に偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着いた学校生活を送れていることは素晴らしい。 ・遅刻・欠席者の固定化と恒常化については、登校時の声かけや個別指導など、きめ細やかな対応をして欲しい。 ・いじめについては、啓発活動やアンケート調査、面談などを通して、早期発見・解決に努めていただきたい。 ・生徒会執行部を中心とした行事の企画・運営は、生徒の自主性や協調性を育む上で重要である。 ・中学時代に不登校の生徒が通常な通学に変わることは素晴らしいと思う。 ・ピアサポートも大切になると思われる。 ・いじめ対応のフローチャート等情報収集・情報共有はもちろんのこと次の具体的な行動の流れを全体的に落とし込むことによって、迅速な対応がとれると思う。 ・全体的には落ち着いて、楽しく学校生活を送っていると思われる。同じ生徒の遅刻欠席の固定化にならないようにすることが課題であると思う。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の挨拶（声かけ）は継続し、遅刻防止の指導（声かけ）も合わせて行う。 ・いじめに関しては啓蒙活動を行うとともに、計画的なアンケート調査や面談を通じて早期発見・解決を心掛ける。 ・安易な遅刻や欠席の数を減らすための効果的な指導法について情報収集する。 	

<p>進路指導 学校評価 アンケート 進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の協力のもと、キャリア教育計画に沿った指導を実行することが出来た。 ・「キャリアパスポート」および「進路のしおり」、その他資料を活用し、振り返りをさせることができた。 ・学校外の様々な機関と連携することができた。 ・基礎力診断テストの結果を面談等で活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育計画に沿った指導を、全職員の協力のもと実行できていることは素晴らしい。 ・「キャリアパスポート」や「進路のしおり」などの資料を活用し、生徒の振り返りを促すことは、主体的な進路選択を支援したい。 ・学校外の様々な機関と連携することは、生徒の進路選択の幅を広げるために重要である。 ・基礎力診断テストの結果を面談等で活用することで、生徒の学習状況や進路意識を把握し、適切な指導を行って欲しい。 ・本年、大学入学共通テスト受験者があったとの報告がありました。今後、大学進学・専門学校・就職と生徒の希望は多方面になると予想されるが対応は大丈夫か。 ・教職員の負担は重々理解している。キャリア教育の充実が学習指導・生徒指導の根幹となるので更に推進していただきたい。 ・進路指導・職業指導・キャリア教育の違いを理解し、そこを工夫すると尚良いと思う。 ・進路の方向性を早い段階で話し合いがあったため、子供たちもそれに向かい活動できたと思われる。
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアパスポート」「進路のしおり」の見直しと有機的な活用方法について検討する。 ・4年間を見通した「進路マップ」を作成する。 ・外部機関（若者サポートステーション、自立支援センター等）と連携を図る。 	
<p>健康安全 指導 学校評価 アンケート 生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットトラブルの未然防止のために、様々な機会を通じて生徒に注意喚起することができた。大きな事故や事件は起こらなかった。 ・教育的な支援が必要な生徒に対して、サポート委員会を中心として情報の共有や対応することができた。 ・PTとSCと連携し、生徒の指導に当たることができた。 ・避難訓練や防災学習を実施したが、生徒の意識向上については、なんとも言いえない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットトラブルの未然防止のために、様々な機会を通じて生徒に注意喚起することは重要である。 ・教育的な支援が必要な生徒に対して、サポート委員会を中心として情報の共有や対応ができていることは素晴らしい。 ・避難訓練や防災学習を継続して行うことは、生徒の安全確保のために重要である。 ・中学時代に不登校の生徒が通常な通学に変わることは素晴らしいと思う。 ・他機関との連携を更に図っていただきたい。外部の専門機関と連携し対応することは良いと思う。
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット未然防止については今年度同様に様々な機会を利用して注意喚起を行う。 ・支援が必要な生徒の情報共有を行うとともに、外部の専門機関とも積極的に連携する。 ・防災・減災に関わる取組は継続して行う。 	

【学校運営に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
<p>信頼される学校 づくり アンケート 項目なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を新しくした（知・徳・体の3要素の項目とした）。スクールミッション、スクールポリシーは変更していない。 ・保護者等への連絡について紙の使用を減らし、HPや一斉メール（生徒へはgoogle classroom）を利用した。悪天候による臨時休校があったが、職員・保護者・生徒へ問題無く周知することが出来た。 ・教育内容の保護者や地域への伝達としては、HPの利用以外は出来なかった。 ・令和7年度入学者選抜より自己推薦による入試を導入した。想定していたよりも出願者が多かった。 ・学習評価や授業評価をはじめとして、様々な評価や調査を行っているが、十分に活用できているとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を新しくしたことは、時代の変化や生徒のニーズを踏まえ、教育内容を改善しようとする前向きな姿勢の表れである。 ・保護者等への連絡について、紙の使用を減らし、HPや一斉メールなどを活用することは、情報伝達の効率化や環境への配慮という点で評価できる。 ・令和7年度入学者選抜から自己推薦による入試を導入したことは、多様な生徒の入学機会を確保する上で意義のあることである。 ・学習評価や授業評価など、様々な評価や調査を行っていることは、教育活動の改善に役立つ。 ・定時制の存在意義を地域も保護者も本人も充分理解されていることは大変素晴らしいことと思う。 ・保護者との連携を図っていただきたい（現在もそうであると思うが信頼関係の構築が肝要）。 ・自己推薦、更に進めていただきたい。追跡調査等の検証も実施していただきたい。 ・webページやメール等の活用を積極的に行っていくことは良いと思いますが、掲載＝周知徹底されたことにはなりませんので、情報発信後のレスポンス率などその部分を工夫すると良いと思う。 ・保護者への連絡に一斉メールで配信されたのはとても良かった。

改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・安心メール（一斉メール用アプリ）への未登録者を減らすため、入学式後に説明する。 ・HPをこまめに更新する。 ・保護者への成績通知は次年度以降、生徒を通じて手渡しとする。 ・授業評価や基礎力診断テストの結果を学習指導に活かせるよう工夫させる。 	
組織の活性化 アンケート項目なし	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画に評価の観点を盛り込み、それを基準に学校評価を行っている。その内容を次年度以降の学校改善に結びつけさせたい。 ・今年度は1名の過員があり、3分掌に3名ずつ配置することができたが、全仕事量を考えるともう一名欲しいと感じた。 ・超過勤務はある範囲内に収められているが、時期により進路指導や湖定祭等で業務が多くなることがある。部活動指導時間は適正に守られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画に評価の観点を盛り込み、学校評価を行っていることは、PDCAサイクルを確立し、継続的な学校改善を進める上で重要である。 ・教職員の業務量については、分掌業務の見直しやICTを活用した負担軽減など、具体的な対策を検討したい。 ・限られた定数の中でのたいへんさは理解できる。業務の見直しを図るしかない。ただ、見直しの在り方（重要性等）の共通理解が大切である。 ・部活動時間の適正と部活動指導による人間教育の達成度は両輪でなければならない。それらの工夫に期待する。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の内容をしっかりと次年度以降の目標設定や行事の企画運営に反映させる。 ・分掌業務の見直しと、ICTを活用した負担軽減に取り組む。 	
教職員の資質向上 アンケート項目なし	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や分掌の研究協議会等へ出席する教員が多かった。定時制教員だけの平均は1月末で1人6回である。次年度以降も継続していきたい。 ・節目ごとに管理職との面談を行うことによりある程度目標管理ができた。 ・機会ある度に服務に関する情報を提供し、教職員の規律を守る意識が保たれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や分掌の研究協議会等へ出席する教員が多いことは、教職員の資質向上に積極的に取り組んでいる姿勢の表れである。 ・節目ごとに管理職との面談を行うことにより、目標管理ができてきていることは素晴らしい。 ・機会ある度に服務に関する情報を提供し、教職員の規律を守る意識が保たれていることは重要である。 ・互いの身心の体調管理が肝要である。笑顔を絶やさず、たいへんな仕事を乗り切りたい。 ・研修目的によると思う。自己研鑽として研修しているのか、生徒の為に研修しているのか、何を目的に研修しているのかを明確にすると良いと思う。また、その研修結果および成果を報告できるとなお良いと思う。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・校外で行われる研修会への参加を促すとともに、実践的な校内研修会を企画する。 ・教育者としての意識の高揚を図る。 	
公表方法	学校ホームページ	

3 その他 ご意見等ありましたらお願いいたします。

<ul style="list-style-type: none"> ・定時制では、生徒一人ひとりの状況を把握し、きめ細やかな指導を継続することで、生徒の学習意欲を高め、進路実現を支援していくことを期待している。 ・地域や保護者との連携を強化し、地域社会に貢献できる人材育成を目指して、教職員一同、力を合わせて頑張ってほしい。 ・教職員の皆さんの日々の努力に感謝し、今後の活躍を期待しています。 ・定時制の中での倍率の高さに地域からの信頼と期待の大きさがあらわれていると認識している。子供たちが自身に他者の誇り（尊厳）を大切に教育を更に推進していただきたい（自己肯定感の育成がポイント）。
--